

2005年12月13日

報道関係者各位

T-Engine フォーラム
ユビキタス ID センター

ぞくぞくと広がる実証実験

T-Engine フォーラム/ユビキタス ID センター（所在地：東京都品川区、会長：坂村健・東京大学教授）は、ユビキタスコンピューティング社会の実現に向けて、モノや場所を自動認識し、それにくくりつけられた情報を使ってサービスする、ユビキタス ID 技術の研究開発を進めております。

2005年度も、このユビキタス ID 技術をベースとした「ユビキタス場所情報システム」、「ユビキタス食品情報基盤システム」や一般産業でのユビキタスシステムの実証実験がぞくぞくと広がっており、今後も拡大傾向にあります。

下記に、代表的な実証実験をご紹介します。

自律移動支援プロジェクト

ユビキタス ID センターは、国土交通省と連携し、自律移動支援プロジェクトとして、下記の地区で実証実験を行ってきました。また、東京都や青森県など日本全国で実証実験を行ってきました。今後は、神戸空港、新宿など様々な地域で実証実験を行う予定です。

神戸（自律移動支援）

自律移動支援プロジェクト本格実証実験開始式を開催

6月19日、神戸市役所にて「自律移動支援プロジェクト・神戸実証実験 開始式」が、矢田神戸市長、国土交通省 佐藤技監臨席のもと盛大に行われました。本実証実験は、神戸全域に設置した4万個の ucode タグ、無線マーカを用いた大規模なものです。また開始式においてユビキタス街角情報ステーション「ibox(アイボックス)」のコンセプトモデルが公開されました。ibox は、道路標識、交差点案内標識、駅前地域、案内標識にインテリジェント機能を持たせた情報ステーションです。現在 YRP ユビキタス・ネットワークング研究所では独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）や情報通信研究機構（NICT）と衛星利用の研究を進めており、ibox には JAXA 提供の技術試験衛星 VIII 型（ETS - VIII）との通信用衛星パラボラアンテナを搭載し、災害時の被害状況報告や援助要請などの機能を持っています。

チャレンジド・ジャパン・フォーラム 2005 国際会議

8月18日～19日、神戸ファッションマートにて「第十回チャレンジド・ジャパン・フォーラム 2005 国際会議」が開催されました。この会議は、最新の IT を使って障害者の就労を進め、自立と社会参加を支援する国際会議で、北側国土交通省大臣、尾辻厚生労働大臣など国内外の政府や自治体、福祉団体の関係者が出席されました。会場では自律移動支援体験デモが行われ、ユビキタス技術を応用した「ユビキタストイレ」などを多くの

【資料8】

方々に体験いただきました。

神戸実証実験(第一期)

8月24日～9月21日、神戸にて第一期実証実験が実施されました。視覚障害のある方々に、神戸フラワーロードからランプミュージアム間で誘導案内を実体験いただいたあと、情報提供システム全般に関する意見、インターフェース（機器、音声など）に関する意見、コンテンツに関する意見（案内の内容、タイミングなど）をヒアリングしました。

神戸実証実験(第二期)

11月14日～12月9日、神戸にて第二期実証実験が実施されました。視覚障害のある方、車いす使用者、外国人（英語、中国語、韓国語）を対象に、さんちか、フラワーロード、旧居留地、三ノ宮センター街、元町商店街、かもめりあ、メリケンパークで、経路案内を実体験いただいたあと、ヒアリングを実施しました。

愛知万博

愛知万博で「自律移動支援プロジェクト」実証実験

3月25日より「自然の叡智」をテーマに21世紀最初の万博「愛・地球博」が開催されました。この万博会場において国土交通省が進めている「自律移動支援プロジェクト」の一環として実証実験を実施しました。瀬戸会場では約1,000カ所に電子タグを埋め込み、そこから現在地・バリアフリー情報などを提供しました。

実験に先立ち、坂村会長により国土交通省・佐藤技監、日本点字図書館評議員・長谷川先生、名古屋盲人情報文化センターなど多数の方々との臨席のもと実験の目的・スケジュールなどについて説明が行われ、その後、長谷川先生や名古屋盲人情報文化センターの方々にモニターとして視覚障害者の立場から発話内容などの確認をしていただき、その場で使い勝手などを修正する公開実験を行いました。その後もモニター調査を行い、いただいた意見をシステムにフィードバックしました。

愛知万博(瀬戸会場)で公募モニターによる実証実験

6月7日から9月9日までの間、愛知万博(瀬戸会場)で公募モニターによる実証実験を実施しました。瀬戸会場内には既に約1,000箇所以上の場所、道路、点字ブロックなどにucodeタグや無線マーカを埋め込んでおり、ユビキタス・コミュニケータ(UC)による会場内のガイドや目的地の情報、バリアフリー情報などの提供を行いました。この実験に先立ち、6月6日に万博同会場内にて小泉純一郎首相が視察に訪れ、坂村会長が実験の目的やシステムの概要について説明を行いました。

愛知万博(長久手会場)で「愛・地球博ユビキタス観光ガイド」実証実験

8月1日から9月9日までの間、愛知万博長久手会場にて「愛・地球博ユビキタス観光ガイド」実証実験が行われ、来場者にUCを貸し出してアンケート調査が実施されました。場内各所にucodeタグや無線マーカが設置されており、ユビキタス・コミュニケータ(UC)を利用して、場内のパビリオンやレストラン情報、目的地までの道案内情報

【資料 8】

が得られました。また、すべての情報は、日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、スペイン語の 6 ヶ国語に対応しました。

北海道（ユビキタスシンポジウム）

札幌で「ユビキタスシンポジウム in 北海道」開催、および「ユビキタス実証実験 in 赤レンガ」開始

1 月 25 日、北海道札幌市で「ユビキタスシンポジウム in 北海道」が開催されました。満員の来場者の中、坂村会長の基調講演も行われ、好評を博しました。これと同時に、北海道庁赤レンガ庁舎にてユビキタス実証実験が開始され、オープニングセレモニーでは坂村会長らによるテープカットが行われました。この実験は、北海道、国土交通省北海道開発局、札幌市、独立行政法人北海道開発土木研究所が共同で、積雪寒冷地における耐候性調査を中心に、3 月 11 日まで実施されました。またこの期間中、赤レンガ庁舎にて、旅行者や市民にユビキタス・コミュニケーターを貸し出し、ユビキタス社会の体験・ヒアリングなども行われました。

浅草

浅草ユビキタス観光ガイド」実証実験

4 月 18 日～5 月末、ユビキタス ID 技術を用いて行われる観光案内実用化実験「浅草ユビキタス観光ガイド」が実施されました。

これに先がけ 4 月 12 日、オープニングイベントと公開実演が北側国土交通大臣、浜渦東京都副知事、坂村会長臨席のもと、金龍山浅草寺と仲見世商店街で行われました。この実験は、浅草 80 ヶ所に ucode タグや赤外線マーカを設置し、ユビキタス・コミュニケーター(UC)を近づけると文字・写真・動画にて施設の情報などが入手できるものです。また、入手できる情報は、英語・中国語・ハングル語にも対応しています。この実験は国土交通省、観光ガイドシステム推進委員会 浅草地区、YRP ユビキタス・ネットワーク研究所が中心に実施し、浅草地区の協力ホテルの宿泊者を対象に UC の貸し出しが行われました。

上野（東京ユビキタス計画）東京都

上野まちナビ実験

10 月 13 日～11 月 30 日、上野恩賜公園・恩賜上野動物園にてユビキタス ID 技術を用いて行われる観光案内実用化実験「東京ユビキタス計画・上野まちナビ実験」が実施されました。本実証実験では、東京都が国土交通省の実施している自律移動支援プロジェクトと連携し、公園・動物園の主要な地点に ucode タグや電波マーカを設置。ユビキタス・コミュニケーターを使って、外国人を含めた来訪者に目的地までの道案内やモデルルートの紹介、名所の由来・動物に関する情報などを提供しました。

ユビキタス技術展示・秋葉原

また、本実験と同期間中に秋葉原ダイビル 2 階にて「ユビキタス技術展示・秋葉原」を開催し、上野公園の実験で使われているユビキタス技術の現状と将来の姿を紹介しました。

【資料8】

シンポジウム

11月10日、東京国立博物館平成館大講堂にて東京都が主催する「東京ユビキタス計画」のシンポジウムが開催されました。東京都では、ICタグなど先端技術の情報を活用したまちづくりを推進するため、上野恩賜公園及び恩賜上野動物園の実証実験と秋葉原での技術展示を11月30日まで実施し、この実験の意義、ユビキタス社会の展望などについて広く理解していただくために、坂村会長による基調講演とパネルディスカッションを行いました。パネラーは、青山佳世(フリーアナウンサー)、大石久和(財団法人国土技術研究センター理事長)、岡本伸之(立教大学教授)、月尾嘉男(東京大学名誉教授)。

青森県

青森で「ゆきナビあおもりプロジェクト春」の実証実験

2005年度の冬期間に青森県・国土交通省が計画している「ゆきナビあおもりプロジェクト」に先立ち、4月11日、「ゆきナビあおもりプロジェクト春の実証実験」が青森市で開始されました。今回の実証実験では、冬期環境下で電子タグの動作を事前に確認する検証試験が八甲田山中で行われます。また同日、プロジェクトを市民に知らせるためにセレモニーも行われました。午前中、八甲田山で坂村会長による検証試験現場での指導が行われ、さらに市内柳町交差点に場所を移し場所情報システムを活用した自律移動支援デモンストレーションが実施されました。デモンストレーションには三村青森県知事も参加され、好評を博しました。

春の実証実験の検証試験は2005年5月中旬まで実施され2005年秋には本格実験に入りました。

青森「第2回 ユビキタス・フェア2005」で自律移動支援プロジェクト

6月21日～22日、青森市にて「第2回 ユビキタス・フェア2005」が開催され、自律移動支援プロジェクトが紹介されました。青森県では2005年度冬期間に、寒冷地における自律移動支援実証実験の一環として「ゆきナビあおもりプロジェクト」を計画しています。今回は、その実験に先立ち、自律移動支援システムを広く市民に理解してもらうことを目的に、体験コーナーを設置しました。イベント期間中、三村青森県知事、佐々木青森市長や障害を持つ方々なども見学に訪れ、「未来のユビキタス都市・青森」の姿に大きな期待を寄せていました。また、隣接会場「ば・る・るプラザ青森」では、坂村会長による基調講演、ならびにパネルディスカッションが行われ、多くの来場者がユビキタス技術の未来ビジョンに熱心に耳を傾けていました。今回のイベントには高校生や大学生も多数来場し、これからの社会を担う若者達へ、前向きにビジョンを持って社会に参加することの大切さについてのメッセージが送られました。

今後の予定

新宿区で「ユビキタス情報配信社会実験」

2005年12月下旬に新宿区が行っている社会実験の一環として、街灯路等の情報プレートにucodeタグを埋め込み、公共情報、観光情報、災害情報などの情報提供を行う実験を開始します。この実証実験により、ucodeを埋め込んだ情報プレートが社会に対し

【資料 8】

てどの様な有用性があるかを検証を行います。

青森で「ゆきナビあおもりプロジェクト 2006・冬」の実証実験

2006 年 1 月～ 2 月の期間、青森市柳町通りで積雪寒冷地で下記の項目に関して本格実証実験を開始する予定です。

- ・ 多様な積雪環境下でのシステム稼働実験
- ・ 赤外線マーカによる誘導可能性の検証
- ・ 冬季歩行環境向上への活用可能性の検討
- ・ 地域と連携したコンテンツ作成可能性の検証

神戸空港ユビキタス実証実験

2006 年 2 月開港の神戸空港で、空港ターミナルの天井・床・壁に場所を認識するデバイス（ユビキタスマーカ、ucode タグ）を取り付け、これらを利用して、空港ターミナル特有のサービスを提供する実証実験を行う予定です。

また、上記以外にも、2006 年は国土交通省・東京都・地方自治体、民間企業等と連携して銀座など 20 ヶ所以上の地域で実証実験を実施していく予定です。

食の安全・安心を実現する食品トレーサビリティ

ユビキタス食品情報基盤システムの実証実験を開始

平成 17 年度より、生活協同組合コープさっぽろ（所在地：北海道札幌市、理事長：松村 喬）、株式会社三越（所在地：東京都中央区、代表取締役社長：石塚邦雄）、サミット株式会社（所在地：東京都杉並区、代表取締役社長：高田 浩）等と共同で、T-Engine フォーラムが推進するユビキタス I D 技術を用いた、『ユビキタス食品情報基盤システム』の実証実験を開始しました。この実証実験は、農林水産省「平成 17 年度ユビキタス食の安全・安心システム開発事業」として実施されるものです。

T-Engine フォーラムでは、昨年度、青果、精肉、日配品、加工品を対象とした、「ユビキタス I D 技術を用いた統合型食品トレーサビリティシステムの開発・実証」（農林水産省「平成 16 年度トレーサビリティ開発事業」）を実施しました。本年度は、この成果をさらに進化させ、食品に関する生産履歴・加工履歴・流通履歴・販売情報と食品の個体（現物）との紐付けをユビキタスコンピューティング技術を活用して確保し、情報システムによってそれらの情報を効率的に管理することで、その情報を食の安全・安心を高めるための食品トレーサビリティの実現や、さらに副次効果として食品の物流効率化・高信頼化、店舗における食品の販売促進業務、生産段階における生産支援など、汎用的かつ多目的に活用できる基盤システムの開発、実証実験を実施します。

本実証実験では、農産物（野菜・果物）、畜産物（牛肉・豚肉・鶏肉）、水産物（国内養殖魚）、加工食品等さまざまな品種を扱い、携帯電話に RFID 読み取り機能を追加した UC-Phone、バッテリーを持ったアクティブ型のタグ、超小型センサーネットワークや物流 E D I システムとの整合性を実現する u T A D 等の最先端のユビキタスコンピューティング技術を活用し、生産現場におけるエキスパートシステムの確立やデータ収集の自動化、食品流通の合理化、個人プロフィールに合致した食品情報の提供、第三者監査システムの確立などを実証します。

なお、本実験には、YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所が総務省の委託を受けて

【資料8】

進めている「ユビキタスネットワーク技術の研究開発（超小型チップネットワーク）」、および独立行政法人情報通信研究機構の委託を受けて進めている「ユビキタスコンピューティング環境を実現する基盤ネットワークプロトコルの研究開発」の成果による最新のユビキタス技術を活用いたします。

また、全体検討・統括・調整をおこなう組織として T-Engine フォーラムの中に『ユビキタス食品情報基盤システム部会』を発足させ、ユビキタスIDセンター、農林水産省、東京大学、ユビキタスMD研究・協議会から構成される連携体制を確立し、生産地における情報の記録実験を今秋より実施、加工・流通・店舗における実証実験を今冬に実施する予定です。

アパレル分野の流通・販売支援

紳士服専門店最大手の青山商事と uID 技術の本格導入を目指した実証実験を開始

YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所と、青山商事株式会社は、実用化を前提として、青山商事が取り扱うスーツを対象に、生産から販売に至る工程において、ユビキタスIDセンターが標準化を推進しているユビキタスID技術を利用した実証実験を開始します。本実験の特徴は次の通りです。

- ・日本で初めて、日本と外国間で国を越えて、工場から店舗まで一貫で、RFID(ucode タグ)で統合管理をおこないます。
- ・一つのタグを流通管理、品質管理、店舗での商品情報提供サービスまで多角利用します。
- ・青山商事が主体的に、実用を前提に取り組んでいます。

以上